

医療生協健文会 宇部協立病院

知っちょる？ 在宅医療

治療をがんばっても治りきらず、病気の影響が残っても、
住み慣れた家で自分の生き方を大事にして過ごしたい。
それを応援するのが、在宅医療です。



在宅医療とは

「在宅医療」という言葉を聞いたことがありますか？

在宅医療とは、通院できない患者様のために自宅(在宅)で医療を行う事です。

在宅医療には連携が重要

患者様が在宅で療養するには、医療も介護も必要です。

リハビリを必要とする患者様もいらっしゃいます。

そのために、訪問診療、訪問看護、薬局、訪問介護などで、患者様の情報を共有するなどの連携をして、安心して療養できる体制に整える必要があります。

宇部協立病院の在宅医療の特徴

在宅療養支援病院として、医療と介護の両面から「安心」を基本に、患者様・ご家族様のサポートをしていきます。

また、24時間往診可能な体制を確保しており、緊急時には入院加療も可能なベットを確保しております。

Contents

- P.4 在宅医療を身近に感じていただくために①
- P.6 在宅医療を身近に感じていただくために②
- P.8 在宅医療を身近に感じていただくために③
- P.10 在宅医療を身近に感じていただくために④
- P.12 在宅医療を身近に感じていただくために⑤
- P.14 在宅医療を身近に感じていただくために⑥



在宅医療



Q どのような方が対象ですか？

- A
- 通院できない方
 - 入院より自宅で暮らしたい方
 - 体が不自由な方
 - 認知症のケアが必要な方
 - 自宅でホスピス(緩和ケア)を望まれる方など

Q 病院で受けている医療が在宅でも続けられますか？

- A
- 酸素療法、気管切開、人工呼吸、輸液、輸血、注射薬、胃瘻栄養、経静脈栄養、人工肛門、褥瘡のような特殊な傷の処置などの治療やケアは、ご家族、訪問看護師、訪問介護士さんたちと協力して、在宅でも続けることができます。

Q がん末期など、自宅で最期までの緩和ケアはできますか？

- A
- もちろんお手伝いさせていただきます。
在宅緩和ケアの目的は、患者様やご家族が在宅でも患者様の尊厳を大切にしながら、不安なく、安楽に生活できることであり、その延長線上に在宅での看取りがあります。

Q 他の病院と併診することはできますか？

- A
- できます。がんや難病に対して専門的治療を行っている場合、その病院と訪問診療を行う当院との併診ができます。現在の病院と縁を切らずに、「とりあえず家で過ごしてみる」というスタイルもあります。



～ 在宅医療を身近に 感じていただくために ① ～



副院長
立石 彰男

このコーナーに記事を書くようになって5年になります。読者の皆さんに、在宅医療というものを身近な医療として感じていただくために、在宅医療を受けた患者さん、そのご家族の様子を紹介してきました。今号からは、在宅医療そのもののいろいろな側面を紹介してみたいと思います。もちろん、患者さん・ご家族にとっての意味を中心に、医療との橋渡しをしていきたいと思っています。

Q1. むかしはお医者さんがふつうに 家に来てくれてたって本当?

A1. そうです。昭和の前半は、病気になったら自宅療養がふつうで、医師にたのんで来てもらいました。病院はわずかしかなく特別でした。その後、病院の数が増え、病院での医療が主流となった時代を経て、平成に入り、さまざまな国の制度の変更があったんです。

まず、正式に、家や施設も医療をおこなう場所のひとつと定められました。それだけではなく、家や施設で安心して医療が受けられるように、訪問診療や訪問看護などのしくみも整えられました。介護保険制度も、在宅医療のためだけのものではありませんが、これがないと安心して在宅医療を受けることができません。

ですから、医師が家におもむくといっても、むかしと今では、大きな様変わりです。

いったい、私たちの社会のなにが変わったのでしょうか? 答えは、日本人がかかる病気が変わり、日本人が高齢化したことと深い関係があります。



Q2. なぜ、在宅医療のしくみが整えられてきたのでしょうか？

A2.

私たちは、一生のうちに幾度となく病気にかかりますが、一回の治療で（仮に“治す医療”とよびます）、元の健康を取り戻すとはかぎりません。むしろ、がんや脳卒中、慢性の心臓・呼吸器の病気などのように、病気の影響が残ってしまうことが増えています。

そんなときに重要になるのが、“治す医療”だけでなく“ささえる医療”です。“ささえる医療”というのは、①病気の影響が残っていても苦しさがないように、②からだの動きづらさはあっても生活に支障がないようにするための医療です。だから、介護と一体です。病院の病棟は、“治す医療”が最適な条件で行なわれるように動いていて、それぞれの患者さんの個性や習慣は、その条件の中で配慮される、と言ってもいいでしょう。逆に、長く病気の影響と付き合っていく在宅医療で重視されるのは“ささえる医療”であり、その方の個性や習慣、自分ペースの生活です。“ささえる医療”に最適な場所でおこなう在宅医療だからこそ、制度が整えられたと言えます。

在宅医療の事がすこしわかります！ //

無料
配布中！



Q3.

医療を受けるとき、その人の個性や習慣って、そんなに大切？

A3.

今回、いちばん大事な質問ですね。読者の中には、“医者って治してなんぼ、私のプライバシーなど気にしないで”と（患者として）思っている人もいることでしょう。これも一面の真実でしょう。しかし、体験しないとわからないことかも知れませんが、患者である“私”の治療に専念してくれている主治医が、“私”の仕事のことや家族のことを気遣う言葉をかけてくれたとき、とてもうれしく感じることでしょう。逆に、“ただ、〇〇という病気を持った人としてしか扱われないときとてもさみしい”という声を聴くことがあります。



医師を含めて、チームとして、その方が大切にしていることを大切にする、このことが可能なのが在宅医療ということもできます。

読者からの在宅医療についての質問をお待ちしています！

メールにて下記アドレスまでお寄せください。

FMきさら info@kirara804.com

宇部協立病院 地域連携在宅医療科

在宅医療の
いろんな相談
を受け付けて
います

〒755-0005 山口県宇部市五十目山町16-23
お問合せ：070-3786-9514

家ってええちやね!

～ 在宅医療を身近に
感じていただくために ② ～



副院長
立石 彰男

適切な治療を受けても治りきらず、たとえ病気の影響が残った状態でも、住み慣れた家で自分の生き方を大事にして過ごしたいーそれを応援するのが在宅医療です。今回の話題は、“人はどのように在宅医療と出会うか?” (入院編) です。

Q1. わたしも在宅医療を受ける 可能性がありますか?

A1.

長患いたくないという思いから、“ピンコロ”=“人生を終える寸前まで元気”を望まれる方がいます。しかし、人生の終え方は選べません。突然死は10人中1人以下です。大多数の日本人が、人生のどこかで在宅医療に出会う可能性があります。

Q2. 在宅医療との出会いは?

— 脳梗塞後遺症のあるA子さん —

A2.

夫の介護を受けている A子さん (80歳台)、最近、食事にむせるようになり“誤嚥性肺炎”で入院しました。3週間の治療で肺炎はよくなりましたが、退院後も、できるだけ安全に、でも自分の口で食べられるように、在宅医療を受けることになりました。嚥下や栄養の状態、肺炎のリスクを判断し、食事のとり方の助言や肺炎の予防を行う訪問診療医と訪問看護師です。もともと関わっていたケアマネジャー、ヘルパーも加わり、退院を前にして関係者が一堂に会しました。

在宅医療の事が
すこしわかります! //



無料
配布中!



Q3. 在宅医療との出会いは？

— 胃がんで食欲のないB男さん —



A3.

B男さん（70 歳台）は、胃がんの手術のあとも、残ったがんに対して外来で抗がん剤を受けて来ました。しかし、最近、再び食事がとれず、腹痛もあるため、入院となりました。痛み止めと水分栄養補給の点滴で小康状態となったあと、「今後は、痛みや吐き気などの症状を緩和して体力を温存する治療を」という医師の提案を受け入れることにしました。その場として自宅を選択したため、医師、看護師、薬剤師、ケアマネジャーなどが退院前に集まり、B男さん一家と顔合わせをしました。

Q4.

入院している場合、誰が在宅スタッフとの間をとりもってくれるのでしょうか？

A4.

「退院調整」、「地域連携」という名前のついた部署があります。治療にあたる職員と協力して、退院後も必要な治療が継続でき、生活に支障がないような準備を考え提案します。医療と介護サービスの具体的な提供先の相談にも乗り、顔合わせをします。しかし、病院がルールを敷くわけではなく、あくまで患者さんとの双方向の協力です。今後受けたい医療、療養したい場所、生活のパターン、人それぞれだからです。“病状やご家族がこうだからこうだろう”と決めつけられるのは苦しいことです。そのためにも、ご自身の言葉で“こんなことは出来ないだろうか？”と声をあげていただくのが一番です。



Q5.

病院から在宅へ、新しい関係づくりの不安が大きいのですが？

A5.

初めて顔を合わせる人たち、不安が大きいですね。私たち援助者が努力していることは、まず、病院でのご様子やご希望が在宅に引き継がれるよう、しっかりした情報共有です。また、家族の待つ自宅に帰れる安心感の一方で、B男さんのように、抗がん治療が終了したり、体力の衰えを実感したりする時期でもあります。

その人の希望と苦しい現実、そして、そんな中でも大切にしていること、支えとしていることを意識して、在宅のスタートを応援したいと考えています。



宇部協立病院
地域連携在宅医療科

在宅医療の
いろんな相談
を受け付けて
います

〒755-0005 山口県宇部市五十目山町16-23
お問合せ：070-3786-9514

家ってええっちゃね!

～ 在宅医療を身近に
感じていただくために ③ ～



副院長

立石 彰男

適切な治療を受けても治りきらず、病気の影響が残った状態でも、住み慣れた家で自分の生き方を大事にして過ごしたいーそれを応援するのが在宅医療です。前回に引き続き、“人はどのように在宅医療と出会うか？”（後編）をお話します。まず、3人の方が、どのように在宅医療に出会ったか紹介します。

だんだん病院の外来に通うのが 難しくなった C 夫さん(80歳代)の場合



通い慣れた病院の外来でも、高齢になるにつれて通院が難しくなります。これまでにない病気を併発しているのか、これまでに患った病気やけがの影響が強くなっているのかを、主治医に相談しましょう。すぐには判断できず、検査や入院を提案される場合もあります。C夫さんは、外来で出来る検査だけを受けることにし、結果、新たな病気はなさそうです。在宅医療を行っている診療所や病院、通院以外の生活の困難について相談できる「高齢者相談センター」を紹介されました。

専門病院の外来に通いながら在宅医療も 利用する D 郎さん(70歳代)の場合



D郎さんは、がん治療の専門病院に通って抗がん剤の治療を受けています。その主治医の提案で、在宅医や訪問看護も利用することになりました。ふだんは通院できますが、抗がん剤を受けた週は身体がだるく食欲がなくなるので、自宅で水分栄養補給の点滴をするためです。2つの医療機関受診による医療費増加については、一月の医療費上限を定めている制度を利用します。他にも、自宅で、おなかに貯まった腹水を抜いたり、輸血を受けたりすることも可能です。



ご家族の介護を受けて自宅療養中の E子さん(90歳代)の場合



長男夫婦と同居され、90才まで畑仕事をされたE子さん。最近、食欲がなく、トイレにも這って行く状態です。しかし、病院ぎらいで受診は拒否、家族が高齢者相談センターに連絡、紹介された在宅医の往診を受けました。E子さんの表情は硬いまま、“この年まで生きてきて、病気とのつきあい方は自分がいちばん知っているよ”と言っているようでした。望まない検査や処方せず、E子さんなりの療養を尊重することを伝え、E子さんペースの在宅医療をスタートしました。

● 通院が難しい時、入院ではなく 在宅医療の選択肢も!

3名の方が自宅で安心して医療が受けられるのは、①在宅医療の担い手が増えたこと、②入院でしかできなかった医療が在宅でもできるようになったこと、③患者さんその人の療養のしかたをまず受け入れ、その人のペースで関わる文化が認められるようになったこと、によります。通院が難しくなったとき、入院と在宅という2つの選択肢があるのです。急ぐ場合にそなえて、通院中の病院での医療情報がすみやかに在宅医療機関に伝わるしくみ、連携して在宅準備を整える在宅チーム作りも進んできています。

● 新型コロナ感染拡大 の影響?

市中感染の可能性も否定できない現在、多くの病院で面会制限や禁止を行なっています。このことを理由に在宅を選択される方も増えているようです。病院が、対面に代わる入院患者さんへの家族のサポートの方法を探りつつ、在宅の側は受け入れの量と質をあげることも必要です。



在宅医療の事がすこしわかります! //

無料
配布中!



宇部協立病院
地域連携在宅医療科

在宅医療の
いろんな相談
を受け付けて
います

〒755-0005 山口県宇部市五十目山町16-23
お問合せ：070-3786-9514

家ってええっちなね!

～ 在宅医療を身近に
感じていただくために ④ ～

在宅医療の“安心の仕組み”



副院長

立石 彰男

適切な治療を受けても治りきらず、病気の影響が残った状態でも、住み慣れた家で自分の生き方を大事にして過ごしたい—それを応援するのが在宅医療です。在宅患者さんやご家族は、一見、孤立してみえるかもしれませんが、**在宅医療には、患者さん・ご家族が、いろいろな困難に出会いながらも、穏やかにすごすことができる“安心の仕組み”があります。**今回は、この“安心の仕組み”について紹介します。

(協立病院の在宅スタッフが、さまざまな地域の事業所とチームを組んで行う場合を想定しています)

定期訪問 と 緊急訪問

医師の場合も看護師の場合も、**①** 何事もなさそうでも定期的にご様子をお確かめする定期訪問 と、**②** 24 時間 365 日、何かあればいつでも連絡を受け、必要ならうかがう緊急訪問（往診）があります。これらの二本立てで活動しています。

突然、これまでにない症状が!

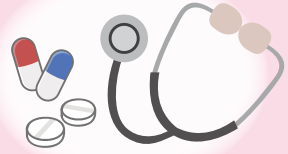
突然発熱した、嘔吐した後も吐き気が止まらない、急にせき込み出した、こんなことが夜間に起こったら…在宅医療を受けようとする方のいちばんの不安だと思います。**このような場合にこそ頼ってほしい“安心の仕組み”が緊急コールと緊急訪問です。**

私たちは、体調が変わったときの連絡先を一本化する [急ぐときにも迷わないように] → 連絡の内容はおおまかでもよい

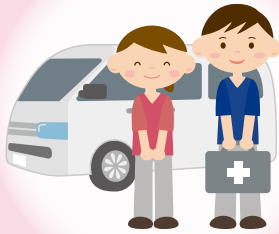




【何かいつもとちがう、も重要】→ 必要に応じて、看護師
そして医師が訪問する、という体制をとっています。がんなど
で痛みのある患者さんには、あらかじめ説明しておいた臨時
の痛み止めを飲んで、待っていただくこともあります。



普段から、患者さんの体調を知っておく



急な変化にかけつけるだけではなく、正しい対応ができないとい
けません。そのためにも、普段から定期訪問し、必要なら検査
もして、変化のきざしや前ぶれを知っておく必要があります。そ
れが、**何事もなさそうでもうかがうことの意味**です。また、た
とえ難病でベッドから離れられない病状でも、健康は守っていきたい
という思いは大事です。そのための検査（健診、がん検診）
を希望される方には実施します。

“在宅医療は超特別な個室”～その秘密～

病院の病棟と比べて、コールしてからの待ち時間がある在宅、
なのに、“在宅医療は超特別な個室”と表現された患者さんが
います。それは、患者さんにとっての一番すごしやすい環境とい
う意味だけではなく、看護師、医師など、在宅職種が、自分の
ために来てくれているという思いからです。以下は、私の想像で
すが、患者さんがそう思えるのは、その方を治療・ケアするた
めにだけ組まれたチームであって、チームの共通の第一の関心事が、
その患者さんの身体とところにあるから、ではないでしょうか。



在宅医療の事がすこしわかります! //

無料
配布中!



宇部協立病院
地域連携在宅医療科

在宅医療の
いろんな相談
を受け付けて
います

〒755-0005 山口県宇部市五十目山町16-23
お問合せ：070-3786-9514

～ 在宅医療を身近に 感じていただくために 5 ～



副院長

立石 彰男

適切な医療を受けても治りきらず、病気の影響が残った状態でも、住み慣れた家で自分の生き方を大事にして過ごしたい—それを応援するのが在宅医療です。

今回は、**患者さん・ご家族の声**

“こんな人たちにみてほしい”をとおして、支援者との関係について考えてみたいと思います。

治らない病気の人にも力を尽くす

在宅医療を受ける人には、慢性の病気、難病やがんの人が多くいます。急性期医療のように、“治る”というゴールはなくても、その人のやり方でよりよく生きるお手伝いをやりがいにする人です。これは基本です。

● 助けを求めることの難しさ ●

助けを求める人にできる限りの力を尽くすことと同じく大切なのが、助けを求めることの難しさを理解し“準備して待つ”ことです。“病気とのつきあい方は自分が一番知っている、自分なりのやり方でやってきた、自分は何も困っていない”、こんな患者さんの声も一つの真実です。

支援者は、患者さんのやり方を受け入れ、“準備して待つ”ことが重要です。





医療は多すぎず少なすぎず



病院から在宅に帰る場合、今受けている医療が続けられなくて帰れない、あるいは不安を感じるということがないように、“在宅でも〇〇はできる”準備をすることは安心につながります。一方で、せっかく家に帰るのだから、少しでも家の中で動きやすいように、団らんの時間を邪魔されたくないから“〇〇をしない”ことを相手が選んだら、それに代わる方法を工夫し相談することも大切です。

話を聴いてくれる人

誰しも、病気と闘ってきた苦しい経験、治療をやりきった誇らしい経験をもっています。これから療養生活を伴走してくれる人たちに聴いておいてほしい。あるいは、うまく説明できない漠然とした不安、ネガティブな感情、家族にはきかせたくない弱音を聴いてほしい。たとえ、その場で解決がみえなくても、支援者に話を聴いてもらえることは安心感につながり、自分の思いを見つめなおすことにもなります。



● 支援者として「話を聴いてくれる人」になるために ●

目の前の支援者が、自分が大切に思っている話を聴いてくれるかどうかは、患者さんにとって難しい判断です。私たちにできることは、迅速な処置が必要な場面は別として、話しかけやすいおだやかな雰囲気を保っていること、相手のペースで話が聴ける、相手の話をさえぎらない、聴き手の判断で先走りしないことだと考えています。

在宅医療の事がすこしわかります! //

次号に続きます

無料
配布中!



宇部協立病院

地域連携在宅医療科

在宅医療の
いろんな相談
を受け付けて
います

〒755-0005 山口県宇部市五十目山町16-23
お問合せ：070-3786-9514

家ってええっちなね!

～ 在宅医療を身近に
感じていただくために 6 ～



副院長

立石 彰男

適切な医療を受けても治りきらず、病気の影響が残った状態でも、住み慣れた家で自分の生き方を大事にして過ごしたい—それを応援するのが在宅医療です。

今回は 前回に続いて、**医師など支援者との関係**について考えてみたいと思います。

「おまかせします」ということは

病気がわかって治療をうけることになったとき、どんな治療なのか、医師から説明があります。その際によく聞かれる言葉が「おまかせします」です。「自分はしろとだから、専門家の医師と何かを相談するというのは無理、よい方向に行くようにあなた(医師)が考えてください」というニュアンスがあります。もし、いきなり耳慣れない専門用語が出てきたら、そんな気持ちにもなるのも無理はありません。

たしかに、けがや急病のように、“この治療をうければ治る”という場合、相談の余地はないようにみえます。でも、よく聞いてみると、**どんな治療にも、よい結果ばかりでなく悪い結果、十分な効果がえられなかったり、副作用が出る可能性があることがわかります。**これは、医師が“予防線をはっている”のではなく、**お互いに後悔をできるだけ少なくするため、**です。

お互いのため医師としっかり相談を!



在宅医療の場での選択

在宅医療でも、医療の選択をせまられることはよくあります。数日食欲がないが点滴を受けるかどうか、痛み止めが効かないとき次にどんなお薬があるか、と



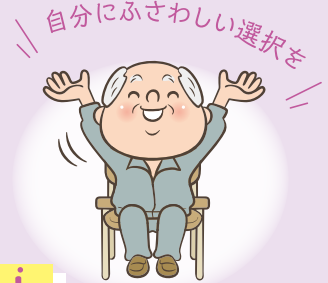
在宅医療の事が
少しわかります

無料
配布中!



いった目の前のこともあります。どんな状態になったら施設や病院での療養を考えるかという、先のこともあります。ここでは、「おまかせします」という言葉はあまり聞かれません。

急病で入院する場合のように、生活は一変しても、がまんは一時的で、元の生活に戻れるという状況とはちがいます。治療は形を変えて繰り返されることが多く、その結果がもたらす**日常生活への影響や費用のことは無視できません。自分の信条や生き方にそぐわないことは、できるだけ避けたいという気持ち**もあります。ことの大小はありますが、**病気と生活への影響、二つの面から、より自分にふさわしい選択をしたい**という思いです。



医師は患者さんの人間についてはしろうと

生活への影響やその人の信条、といっても、医師は患者さんの人間についてはしろうとです。**病気や治療についてしろうと**の患者さん、**患者さんについてしろうと**の医師、ここに相談の意味が生まれます。選択肢は複数、どれを選んでも、よい結果だけでなく悪い結果もある。他人である患者さんのことをすべて知ることなど不可能ですが、“**よりましな(できれば、よりハッピーな)選択**”という**共通の目標**があることが、お互いの関係を円滑にし、不思議と、そこに温かさをもたらしてくれます。

コロナ禍で面会禁止の続く病院、それならと在宅をえらばれる方、そのなかには、人生の最終段階を在宅で過ごされる方も多くおられます。生命をおびやかす病状の場合、“**自分はこんなふう**に人生を生きてきて、**こんなことを大事**にしている人間”**“残りの人生をこういうふう**に過ごそうと思っている”という思いも医療や介護のうけ方の中に組み込んでおく、支援者はできるだけ、その思いにそって、支援を考えていく、それができるのが在宅です。

寝たきりに近い状態で自宅に帰られ、今はベッドを離れ、日課の記事のチェックも楽しめるSさん

次号で紹介します

宇部協立病院
地域連携在宅医療科

在宅医療の
いろんな相談
を受け付けて
います

〒755-0005 山口県宇部市五十目山町16-23
お問合せ：070-3786-9514

相談窓口

宇部協立病院 在宅医療に関する相談窓口

在宅医療に関しましての疑問、ご質問は下記電話番号までお問い合わせください。

在宅専任看護師 携帯

☎070-3786-9514

受付時間：9時～17時（土日祝除く）



宇部協立病院ホームページ内でも
在宅医療・訪問診療について
詳しくご紹介しております。
ぜひご覧になってください。



ドクターTV ジャパンでも
宇部協立病院の
在宅医療・訪問診療について
詳しくご紹介しております。



co-op 医療生協健文会
宇部協立病院

〒755-0005 山口県宇部市五十目山町 16-23

☎0836-33-6111 FAX.0836-33-2277

